

よりよい教職専門実習をめざして

～コロナ禍の教職専門実習Ⅱを通して考えたこと～

初田 幸隆

(京都教育大学)

1. はじめに

筆者は京都教育大学附属高等学校で実習する国語、数学、社会(公民)、社会(地歴)の各一名ずつ計4名のストレートマスターを担当している。今コロナ禍における教職専門実習の実施状況は、本章冒頭に記されている通りであることから、実習期間中の院生の様子については簡単に記すこととし、主に、これからの実習に向けて考えたことを述べたい。

2. 令和2年度教職専門実習Ⅱの実際

4月7日(火)に政府から「緊急事態宣言」が発出されたため、実習初日である8日(水)に、大学としての対応を協議し、協議内容を実習校に連絡の上、9日(木)に自宅実習に切り換えた。このため、実習生は自宅勤務における教職経験を積むこととなった。職務の内容については、担当指導教官と連携を取り、指示されたことだけではなく、各自が教員として出来ること、必要であると考えを主体的に実践するよう指示した。しかしながらその後、「単位認定のための条件の目安」や具体的な「自宅実習での課題」を実地教育委員会が提示することとなり、実習生や担当指導教官の一部に混乱が見られた。実地教育運営委員会としては、対面での授業等、通常であればメインとなる実習内容が実施できない状況において、単位取得に要する要件を勘案しての策であった。実習生同士は、互いに顔を合わせることもなく、自己完結型の職務を遂行していたため、4月22日(水)からの毎週、zoomによる省察会を開催し、近況の報告、確認と共に、オン・ライン授業の有効な活用方法等について、「よりよい授業をつくる」という視点で議論を深め、課題として課したレポートのテーマ「コロナ禍における職務遂行に関する課題設定と実践」に、自身が行っている職務を結びつけて考えられるようにした。

3. そもそも教職専門実習とは

教育実習における実習生の立場はあくまでも学生である。それに対して、教職専門実習では、大学院生は教員の立場で、教職を経験する。この解釈が正しければ、教職専門実習生は院生としてではなく実習校の教員として働くこととなり、本来的には実習校の監督の下、職務を遂行していくことになる。したがって、今実習において、当初、連携校に依頼したように、担当指導教官からの指示に従い、業務を行うという実習の在り方は的を得たものであったといえる。しかしながら、その後、実習途中に文部科学省から通達が出されたりし

たため、4月当初から実習を行っていた本学としては、単位取得の要件等を再考することとなり、図らずも大学からも課題を課すこととなった。すなわち、一部に見られた混乱は、実習校の監督下における教職を全うする実習でありながら、大学からの指示による院生としての課題が実習上に付け加えられたことにより、実習そのもののガバナンスに乱れが生じたためであったと考えられる。

4. 学校現場、教育委員会、大学等、協働による教員養成

OECD の Education2030 では、近未来の社会を VUCA の時代と呼び、不安定(Volatility)、不確実(Uncertainty)、複雑性(Complexity)、曖昧さ(Ambiguity)が併存する社会がまもなく到来すると予測していた。ところが、新型コロナウイルスの世界的流行により、学校はもとより、社会全体が予想を上回るスピードで VUCA の時代を迎えることになった。このような状況下では、Plan の段階で状況が変化し、場合によっては目標を変える必要も生じ、そのことを含めた予測(Anticipation)をもって行動(Action)することが求められる。そして、途中結果での省察(Reflection)をもって、絶えず改善を図り続けるという AAR サイクルなるものが、ラーニングコンパス(学びの羅針盤)図1で示されている。これは、2030年を想定した近未来の学びを図示したものであり、我々教員にも当てはまる。なぜならばこのような社会においては我々も学習者であるからだ。

図1で示されるゴールは Well-being であり、個においては個がめざす、「なりたい自分」そのものであると解釈する。社会や組織においては「実現したい社会、組織」ということが言えよう。そして、この Well-being の実現に向けて、その道筋を俯瞰的に予測し、自らが有する資質・能力を使って、場合によっては補強しながら歩みを進めることになる。今実習において、各実習生は Well-being やその実現に向けた道筋について、いかに考えることができたであろうか。また、そのことと並行して、大学教員、実習校教員、教育委員会など教員養成に関わる者が、それぞれの視点から教員養成について考え熟議し、教員養成というプロジェクト課題に取り組むことができたであろうか。間もなく新しい教職大学院に切り替わる。この時期にあたり今後の課題はまさにこの点にあると考える。

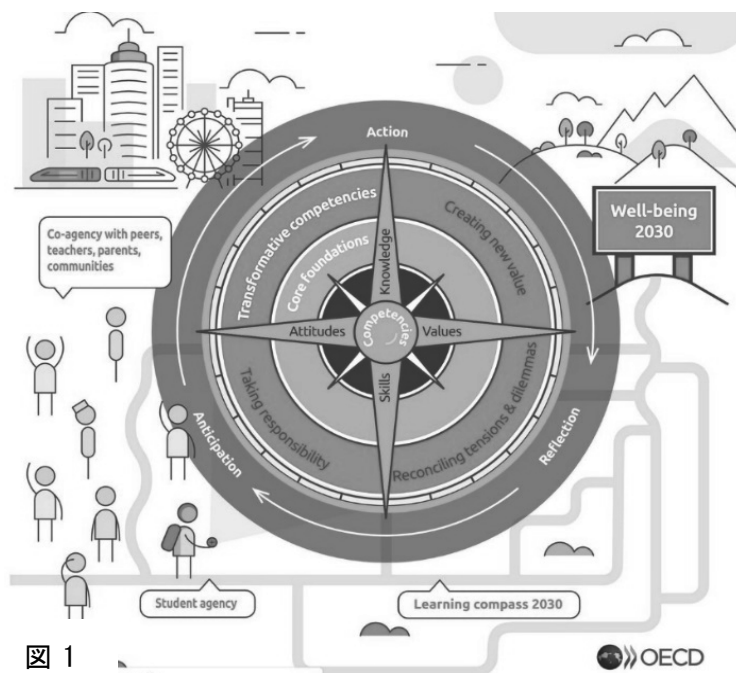


図1 The OECD Learning Compass 2030(OECDラーニング・コンパス(学びの羅針盤)2030)